



2022 JAPAN CHALLENGE



S-FJ もてぎ・菅生シリーズ 第2戦・3戦 2022 SUGO Champion Cup RaceSeries

2022年 4月 16・17日 天候:晴れ 参加14台

今年の S-FJ ジャパンチャレンジ開幕戦がスポーツランド SUGO で開催された。関東地域をホームベースとするドライバーに加え、鈴鹿からの遠征組6名が参加をしたが、今年のレースを象徴するように若手ドライバーの活躍が見られた。中でも 18 歳の渡会選手が 2 レース共にポールポジションを獲得し、S-FJ 常勝者の岡本選手を凌駕するスピードを見せた。



2022 年スーパーFJ もてぎ・菅生シリーズ第 2 戦、第 3 戦は舞台をスポーツランド SUGO に移し、4 月 16・17 日に開催された。

今回はスーパーFJ 全国戦のジャパンチャレンジの開幕戦になり、遠征組の参加も多く見られた。関東を主戦場とする ZAP SPEED から 3 台がエントリー、同様に新潟のアルビレックスレーシングチームからも 3 台がエントリーしている。また、昨年のチャンピオン佐藤 樹選手がドライブしたマシンには内田涼風選手が乗る。そして遠征組として鈴鹿から 6 台もの車両が参加してきた。レヴレーシングからは 4 台が参加し、中でも岡本大地選手は昨年の SUGO で優勝しているだけに今回も台風の目になると予想された。また岡本選手のチームメイトとして出場の渡会選手もチームを移籍して今年初のレースだが、昨年の SUGO で 4 位に入っており注目される。

《公式予選》

午後1時10分、内田涼風選手（群馬トヨペット Team RiNoA ED）を先頭に14台全車がスリックタイヤでコースイン、15分間の予選が開始される。朝まで雨が残ったスポーツランド SUGOでは予選開始を前にコースは乾き始めているものの、バックストレート手前のレインボーコーナーでは数本の川がコースを横切っている状態だった。

計測が始まると岡本大地選手（FTK レヴレーシングガレージ）が1分34秒672でトップに立ち渡会太一選手（SIGMA FTK レヴRG）が2番手につけが、ここから岡本選手と渡会選手のトップ争いが開始された。次に渡会選手が1分32秒281を出してトップに立つと、翌周には岡本選手が1分30秒897を出してトップの座を奪い返す。ふたりの後ろでは田上蒼竜選手（ZAPSPEED 10VED）と内田涼風選手（群馬トヨペット Team RiNoA ED）が3番手の座を争ってラップごとに順位を入れ替えている。内田選手が1分31秒168でいったんは前に出るが、すかさず田上選手が1分31秒085で逆転する。5番手は池内比悠選手（アルビ LINK LINE GIA ED）、6番手に大川烈弥選手（アルビ 10V ダイテル GIAED）と ALBIREX 勢が続いている。

残り2分、岡本選手は1分29秒955と29秒台に入れてトップに、これで勝負あったかと思われたが、チェッカーフラッグが降られる中で渡会選手は最後のアタックで1分29秒726と岡本選手を上回るタイムをたたき出してポールポジションを獲得した。

3番手争いは、残り5分の段階で田上選手のチームメイト、村田悠磨選手（ZAP SPEED 10VED）と大川選手が割って入り、内田選手は一時6番手に追いやられるが、すぐに1分32秒085で田上選手に次ぐ4番手に浮上、その後自己ベストの応酬が続いたが、田上選手が1分30秒622でその座を守り、内田選手は1分31秒550で4番手、村田選手が1分31秒876で5番手、池田拓馬選手（テイクファースト&AMEROID）が最後の計測で1分31秒944を出して6番手にすべり込んだ。

ポールポジション：渡会太一選手（SIGMA FTK レヴRG）

「久しぶりのスーパーFJでの予選でしたが、接戦で楽しかったです。走行するのも今年2回目で、チーム移籍して初のレースです。路面はだんだん乾いてきて、レインボーコーナーだけが川が流れていて、そこをどううまく攻略するかがカギでした。攻めすぎてけっこうミスが多かったんですが、最後にまとめられたので良かったです。決勝も頑張ります」



予選2位：岡本大地選手（FTK レヴレーシングガレージ）

「自分には状況が分からないので、一生懸命走った結果です。コースはレインボーコーナーに川が流れていて、その濡れているところと濡れていないところの差が激しくて、滑って難しいコンディションで、いまいちタイムが伸びなかったです。このSUGOでダンロップタイヤのスーパーFJが走ったのは初めてだと思うのですが、鈴鹿よりタイヤの表面が綺麗に摩耗しているので悪くはない感触です。鈴鹿だと縦にスジができてしまうのですがここではできなかった。走っていて鈴鹿みたいに急にドロップするみたいなことがなくて、普通に走ることができる。決勝は渡会選手が速いので、ついて行けたら、という感じで」



予選3位：田上蒼竜選手（ZAPSPEED 10VED）

「レインボーコーナーに川が出ていてレコードラインでは走れませんでした。それ以外の路面は乾いていました。ドライコンディションが初めてなので感触がいいのか悪いのか自分でもよく分かっていなくて、トップからはコンマ9秒くらいは遅れていました。途中コンマ3くらいまで詰めたこともありましたが、最後まで合わせきれなかったですね。それでも初めてにしてはいいんじゃないかなと思います。決勝は前2台について、ラインを学びながら抜いていきたいなという感じです」



《決勝レース》

12周で行われる決勝レースは予選と変わって晴れ間が広がり、コースコンディションはドライだが、ストレートは冷たい風が抜けて気温はかなり下がっている。14台が並び16時にスタートした。

2番グリッドから飛び出した岡本選手の蹴り出しが良かったのに対して、ポールシッターの渡会選手はスタートに失敗、加速が鈍く後続車に飲み込まれる。セカンドローからスタートの田上選手が2コーナー、内田選手が3コーナーでそれぞれ渡会選手をかわして2番手、3番手に浮上する。ここで後続の中で夕田大助選手（LAPS・レヴレーシング）と斎藤慈岳選手（FERWILDLIFEKKSII）が3コーナーで接触、夕田選手がコースアウトしてグラベルに停止。セーフティカー（SC）が導入される。



SCランは5周目まで続き、6周目からレース再開。ここでトップの岡本選手は絶妙なスタートダッシュを決めて2位以下を引き離すことに成功する。一方、4番手に落ちていた渡会選手もこ

の機会をとらえて、前を走る内田選手に右側からギリギリ並ぶところまで並走した状態でコントロールラインを通過すると、その勢いで1コーナーのインから内田選手をかわして3番手に浮上。ただちに田上選手を追い上げる態勢に入る。4番手内田選手、5番手村田選手、6番手池田選手と続く。

岡本選手は2番手の田上選手を2.042秒差まで突き放して6周目を終了。田上選手の後ろの渡会選手は続く7周目に1分29秒230と、ここまでのファステストラップを出して、0.258秒差で田上選手のテールに食らいついて8周目に突入。馬の背で渡会選手が田上選手に並びかけるが、ここは田上選手が抑えきる。

このふたりが攻防を繰り返す間に岡本選手は着々とギャップを稼ぎ、10周目にはこのレースのファステストラップとなる1分28秒456をマーク、田上選手に6.442秒差と独走状態になる。田上選手と渡会選手は0.162秒差。11周目のSPコーナーでは渡会選手が再び田上選手をロックオン。テール・ツー・ノーズ状態で最終コーナーをクリアすると、メインストレートで田上選手の右側に並びかけてコントロールラインを通過、ファイナルラップへ。そのまま第1コーナー～第2コーナーのイン側を突いた渡会選手が、ついに前に出て2番手へ。田上選手はここまで死守したポジションを失う。4番手の内田選手はここから大きく遅れて10秒以上のギャップがある。



岡本選手はスタートでトップに立って以来、一度もその座を脅かされることなく2位に9.095秒の大差でチェッカーを受け、優勝を飾った。

ファイナルラップに田上選手をかわして2位でフィニッシュした渡会選手だが、田上選手とのバトルの最中に走路外走行があったと判定され、フィニッシュタイムに10秒加算のペナルティが課されて5位に降格。田上選手が2位、内田選手が3位、村田選手が4位と、それぞれ繰り上がった。

3台で争われたジェントルマンクラスは鈴鹿から遠征の上吹越哲也選手（FTK・レヴレーシングガレージ）が総合11位で優勝、安藤弘人選手（ZAPSPEED10VED）が2位、オープニングラップでコースアウトした夕田選手はリタイアとなった。



ウィナー：岡本大地選手（FTK レヴレーシングガレージ）

「スタートさえ決まれば逃げ切れるかな、と。そこからは自分との闘いでした。予選のクルマの状態に納得していなかったのでシャシーセッティングを大きく変えたら、かなり改善されたので、決勝は良かったです。予選では雨のセットのままだったので、決勝は完璧に合わせられて、いいペースで走ることができました。タイヤも心配していたのですが、調子よくて、最後までパフォーマンスの落ちは感じなかったです。明日もこの調子でいきたいですが、今日ペナルティだった渡会選手も同じミスはしないので、明日は彼とのレースになって、今日みたいに楽には勝てないと思います」

2位：田上蒼竜選手（ZAPSPEED 10VED）

「最後に渡会選手に抜かれてしまいました。まだペース差があるなぁという感じです。追いつかれ方がすごい勢いだったので、SUGO は狭いから最後の方まで抜かれずにすんだのですが、抑えきれなかったです。最終コーナーの立ち上がりで並ばれてしまいました。スタートではまたストールしかけて危なかったのですが、内側で2台がブレーキング勝負してくれたおかげで、立ち上がりでインが開いていたのでそこへ飛び込んで行って前に出られたんです。SC明けに、（岡本選手に）見事にやられてしまって、そこももったいなかったなというのがあります。完全にタイミングを外されてしまって、そういうところも勉強ですね」

3位：内田涼風選手（群馬トヨペット Team RiNoA ED）

「スタートはかなり決まって行けたのですが、リスタートでエンジンが息をつくようなトラブルが出てしまって、前と離れてしまいました。自分のレース的には岡本選手との差がかなりあるので、明日までに自分が今できることをアジャストしていく必要があると思っています」

翌4月17日、もてぎ・菅生シリーズ第3戦、ジャパンチャレンジの第2戦が開催された。

この日も予選と決勝が行われたが朝から快晴。風も穏やかで絶好のレースコンディションとなった。エントリーは前日から1台が出走を取り消し。13台でのレースとなった。

《公式予選》

予選を目前にして、前日の第2戦で優勝した岡本大地選手（FTK レヴレーシングガレージ）のマシンが、ピットで右リヤの足回りを分解して修理に取り組んでいた。ドライブシャフトの不具合が見つかり、残り時間に追われつつの作業だったが、予選開始時刻には間に合わせていた。

午前9時、斎藤慈岳選手（FER WILD LIFE KKSII）を先頭に13台全車がスリックタイヤでコースイン、15分間の予選が開始される。レースウィークを通じて最高のコンディションだ。

残り11分、第2戦3位の内田涼風選手（群馬トヨペット Team RiNoA ED）が1分32秒816のトップタイムを出すと、次の周回で岡本選手が1分30秒952をマーク。第



2戦2位の田上蒼竜選手（ZAPSPEED 10V ED）が1分31秒143、池内比悠選手（アルビ LINK LINE GIA ED）1分31秒265と続き、内田選手は4番手ヘドロップ。

残り8分で岡本選手は1分29秒879とタイムを伸ばし、田上選手が1分29秒884で続き、村田悠磨選手（ZAPSPEED 10VED）が1分30秒015で3番手に進出する。さらにそれまで中団に埋もれていた前日のポールシッター、渡会太一選手（SIGMA FTK レヴ RG）がセクター1、2、3とベストタイムで走り抜けると、1分28秒510のトップタイムでコントロールラインを通過。渡会選手は1周クールダウンした後、さらにタイムを削り1分28秒267。2014年4月に記録されたスーパーFJのコースレコード、1分28秒101へと近づいていくが、ここで再び岡本選手がアタックに討って出て1分28秒116をマークしてトップに立ち、いよいよコースレコード更新が現実味を帯びてくる。田上選手も自己ベストの1分28秒780で3番手を取り戻す。

そして残り1分を切り渡会選手がついに1分27秒986をたたき出しトップを奪い返すと、コースレコードを樹立。チェッカーフラッグが振られる中で田上選手、岡本選手がなおもアタックを続け、岡本選手はセクター1、2と自己ベストでトップ奪回を狙うも、前を行く田上選手がSPコーナーで単独スピン、岡本選手はこれを回避するためにタイムロス。ポールポジション獲得はならなかった。

ポールポジション：渡会太一選手（SIGMA FTK レヴ RG）

「昨日からペースがいいのは分かっていたので、予選も行けるだろうとは思っていました。ただアタックの周もミスしてしまったので、それがなければもう少しタイムも上げられたでしょう。決勝もこのまま勢いで行きたいと思います。あとはスタートを失敗しないように、そこが一番肝心なので、スタートさえ決められれば行けると思います。ダンロップタイヤについてはヨコハマよりグリップが高いがタレるのも早いので、そこが難しいです。決勝でどれだけ持つかが、まだちょっとよく分からない。昨日のレースでも途中でタレてきた感じで。今日の決勝でもそこをどうマネジメントするかが難しいです」

予選2位：岡本大地選手（FTK レヴレーシングガレージ）

「最終ラップ、ベストで来ていたんですが、第3セクターで目の前でクルマがスピンして、それを回避するのでタイムをロスしてしまって、更新できずに終わってしまいました。それでも昨日より状態はいい感じにいるので、レースは渡会選手について行きながら、抜けるところで抜きたいという感じです。昨日よりも田上選手もタイムを縮めて来ているので、まずは前とふたりで逃げてからやり合わないと、後ろから来られてしまうと警戒しています。12週のレースの中で、そのあたりのレースの組み立ても考えていきたいです」

予選3位：田上蒼竜（ZAPSPEED 10VED）

「最後にSPコーナーで回ってしまったのは自分のミスです。攻めすぎて外側にはみ出してしまい、踏み留まれるかと思ったが、まだ濡れていた芝生に乗ってしまいました。上との差が変わっていないなという印象です。予選中は岡本選手、渡会選手をマークして、後ろについてアタックしてみたり、ラインを見てみたりもしてだいぶ意識はしていました。ただ自分で乗っていても分かるくらい離されていくな、という感じだったので、決勝までに改善の余地があると、今もチームで話していました。そこを良くしてから決勝に臨みたいです。」



《決勝レース》

12 周で行われる決勝は予選と同じく快晴だが、やや風が強くストレートでは右サイドからの横風だ。13 台全車がグリッドに並び、13 時に決勝がスタートした。

第 2 戦のリプレイを見るかのように、2 番グリッドから岡本選手が好スタートを決めて、1 コーナーにはトップで進入。一方ポールポジションから発進の渡会選手はまたしても失速、2 番手へドロップしてしまう。その後方では 3 番手スタートの田上選手の加速が鈍く、内田選手が 1 コーナーでオーバーテイク。しかし田上選手は内田選手のテールに食らいつくと、トップスピードの速さを活かしてバックストレートで 3 番手を奪い返す。



1 周目を終えて、岡本選手は 2 番手の渡会選手に 0.854 秒の差をつけ、コントロールラインを通過。3 番手を取り戻した田上選手だが、内田選手とのバトルの間に上位からは離されてギャップは 1.859 秒、その背後の内田選手～池内選手～村田選手までの 4 台が、1.333 秒差の中に連なって走る。

2 番手の渡会選手は、2 周目に岡本選手とのギャップを削り 0.615 秒とするが、すかさず岡本選手が 3 周目の第 1 セクターでベストタイムを出し、それに対して渡会選手は第 2 セクターでシフトミスをして大きく失速、田上選手に 2 番手を奪われる。

4 周目には、岡本選手は 2 番手の田上選手とのギャップをさらに広げて 5.184 秒差と独走状態。田上選手～渡会選手～内田選手は 0.6 秒程度の等間隔で続く。その後方では、一度は池内選手に

5番手を奪われた村田選手が順位を取り戻す。

5周目、田上選手に警告を示す黒白旗が掲示される。走路外走行が2度あったという判定によるものだ。その田上選手の背後につけた渡会選手は、スリップストリームを効かせて間合いを詰めて、メインストレートでは左サイドから並びかけ、そのまま2台は1コーナー〜2コーナーと並走、3コーナーでイン側となった渡会選手がついに田上選手から2番手を奪い返す。



ここから渡会選手は岡本選手を追い上げに
入りたいところだが、その差は6周目終了時
点で6.996秒まで拡大。3番手の田上選手も
勢いを欠いて渡会選手から1.729秒の差をつ
けられる。そして4番手の内田選手の後方
では、池内選手と村田選手の5番手争いが激し
くなり、4周目に前に出た村田選手を7周目
に池内選手がかわすも、9周目に入ると急接
近。テール・トゥ・ノーズ状態になる。村田

選手は各所で池内選手のミラーに姿を映してプレッシャーをかけるが、池内選手はミスをせずつ
け入る隙を与えない。

10周目、3番手を走行する田上選手に対し、フィニッシュタイムに10秒加算のペナルティが宣
告される。黒白旗での警告の後にも走路外走行があったと判定されたためだ。これで内田選手が
実質的に3番手に。渡会選手はその後も懸命の追走を見せ、8周目に1分28秒621、9周目1分
28秒618、11周目に1分28秒575と立て続けにファステストラップを更新するが、岡本選手
とのギャップはほとんど縮まらず6.730秒差でレースはフィニッシュ。第2戦に続いて岡本選手
が2番グリッドから、スタートで渡会選手をかわしての独走優勝という結果になった。

3位でチェッカーフラッグを受けた田上選手は前述のとおり、10秒加算で4位に降格。代わって
内田選手が連続の表彰台をゲット。池内選手と村田選手の5位争いは最後まで続き、ファイナル
ラップの1コーナーで村田選手がインを突くが、池内選手がしのぎ切って勝負がつき、そのま
まの順位でゴールラインを通過、池内選手5位、村田選手6位という結果になった。

2台が出走のジェントルマンクラスは、第2戦無念の
リタイヤだった夕田大助選手(LAPS・レヴレーシング)
がチームメイトの上吹越哲也選手(FTK・レヴレーシ
ングガレージ)との闘いを制してそれぞれ総合10位、11
位でフィニッシュした。





ウィナー：岡本大地選手（FTK レヴレーシングガレージ）

「結果的にはスタートで行けて、そのまま逃げ切ったというレースでした。ただクルマの感触としてはなんかイケなくて、ペースは高かったけど、あまり良くなかったですね。原因がよく分からなくて、タイヤの使い方だろうとは思いますが、セッティングが7号車と8号車で違うので、そこから何か参考になる事があるかもしれません」

2位：渡会太一選手（SIGMA FTK レヴRG）

「スタートは自分のミスで抜かれてしまって、それさえなければ岡本選手と同じくらいのペースで走っていたので、もったいなかったです。チームからは『今日からお前の名前は一発屋だ』と言われたので、それで終わらないようにしないと。速さはあるのは分かったので、後はミスとかなくして行って、これからレースできたらなと思います。タイヤは最終ラップになって急に（グリップが）落ちて来た感じで、それまでは安定して走っていました。あれ以上周回していたらもっと落ちていったと思います」

3位：内田涼風選手（群馬トヨペット Team RiNoA ED）

「後半になって田上選手に追いつきだしたのですが、やはりドライでの走らせ方を工夫しないと、という感じです。バトルとかスタートはかなり決まって、そこは自信持っていいたいところかな、と思います。一瞬、田上選手の前に出ましたが、そこからの読みがちょっと外れて抜き返されてしまいました。そういうところを反省点として、次戦もてぎで頑張りたいです」



2022 SUGO Champion Cup Race Series Rd.1

2022 JMRC TOHOKU RACE SERIES Rd.2

2022 JAF SUGO CIRCUIT TRIAL CHAMPIONSHIP Rd.1

2022.4.16-17 SUGO INTERNATIONAL RACINGCOURSE



主催：株式会社菅生／菅生スポンサー

協賛：住友ゴム工業 株式会社

2022 SUGOチャンピオンカップ レースシリーズ Rd.1 JAFもてぎ・菅生スポンサーFJ選手権 第2戦 公式予選正式結果表

START : 13:10:00

FINISH : 13:25:00

2022.04.16		SUGO INTERNATIONAL RACING COURSE (3.5865km)				天候：曇り	コース状況：ドライ	発表	:
Pos	No.	Class	Driver	Type	Team	BestTime	Ave. Km/h	Laps	Behind
1	7		渡会 太一	KK-S II	SIGMA FTK レグ RG	1' 29.726	143.898	9/ 9	
2	8		岡本 大地	KK-S II	FTKレグ レーシング ガ レージ	1' 29.955	143.532	8/ 9	0.229
3	13		田上 蒼竜	RD10V	Asカンパ ニー ZAP ED	1' 30.622	142.475	8/ 9	0.896
4	81		内田 涼風	KK-S II	群馬トヨベ ットRiNoA ED	1' 31.550	141.031	8/ 9	1.824
5	26		村田 悠磨	RD10V	ZAP SPEED 10VED	1' 31.876	140.531	7/ 9	2.150
6	97		池田 拓馬	RD10V	テイクファースト&AMEROID	1' 31.944	140.427	9/ 9	2.218
7	36		池内 比悠	RD10V	アルビ LINKLINEGIAED	1' 32.035	140.288	7/ 9	2.309
8	55		板倉 慎哉	KK-S II	AMORE TOKYO	1' 32.054	140.259	9/ 9	2.328
9	37		大川 烈弥	RD10V	アルビ 10Vダ イルGIAED	1' 32.422	139.701	5/ 8	2.696
10	0	G	1 夕田 大助	KK-S II	LAPS・レグ レーシング	1' 33.518	138.063	7/ 8	3.792
11 ※	34		磐上 隼斗	KK-S	アルビ ビ ョント KKSGIAED	1' 33.921	137.471	8/ 8	4.195
12 ※	15		齊藤 慈岳	KK-S II	FERWILD LIFEKKS II	1' 33.943	137.439	8/ 8	4.217
13	9	G	2 上吹越 哲也	KK-S II	FTK・レグ レーシング ガ レージ	1' 34.032	137.309	8/ 8	4.306
14 ※	79	G	3 安藤 弘人	RD10V	ZAPSPEED10VED	1' 36.668	133.564	8/ 8	6.942

----- 以上予選通過 -----

参加台数：14台 出走台数：14台

予選通過基準タイム (130%) 1' 57.131

※No. 15, No. 34の車両の黄旗区間を走行した周回のタイムは採用されない。

※No. 79の車両は、国際モータースポーツ競技規則 付則L項 第4章第5条(ピット出口のネットラインカット)違反により、競技長より訓戒のペナルティが課された。

(裁定時刻 13:15)

2022 SUGOチャンピオンカップ レースシリーズ Rd.1 JAFもてぎ・菅生スポンサーFJ選手権 第2戦 決勝正式結果表

START : 15:58:09

FINISH : 16:22:42

2022.04.16		SUGO INTERNATIONAL RACING COURSE (3.5865km)				天候：晴れ	コース状況：ドライ	発表	:	
Pos	No.	Class	Driver	Type	Team	Laps	Time	Delay	Ave.km/h	Fastest Lap
1	8		岡本 大地	KK-S II	FTKレグ レーシング ガ レージ	12	23' 54.978		107.972	1' 28.456 10
2	13		田上 蒼竜	RD10V	Asカンパ ニー ZAP ED	12	24' 04.073	9.095	107.292	1' 29.246 10
3	81		内田 涼風	KK-S II	群馬トヨベ ットRiNoA ED	12	24' 12.059	17.081	106.701	1' 30.378 11
4	26		村田 悠磨	RD10V	ZAP SPEED 10VED	12	24' 12.790	17.812	106.648	1' 30.454 10
5 ※	7		渡会 太一	KK-S II	SIGMA FTK レグ RG	12	24' 13.124	18.146	106.623	1' 28.854 10
						(24' 03.124+10秒)				
6	36		池内 比悠	RD10V	アルビ LINKLINEGIAED	12	24' 14.524	19.546	106.521	1' 30.341 11
7	97		池田 拓馬	RD10V	テイクファースト&AMEROID	12	24' 14.923	19.945	106.491	1' 30.097 12
8	55		板倉 慎哉	KK-S II	AMORE TOKYO	12	24' 15.780	20.802	106.429	1' 30.177 11
9	37		大川 烈弥	RD10V	アルビ 10Vダ イルGIAED	12	24' 19.185	24.207	106.180	1' 30.392 10
10	15		齊藤 慈岳	KK-S II	FERWILD LIFEKKS II	12	24' 32.941	37.963	105.189	1' 32.716 11
11	9	G	1 上吹越 哲也	KK-S II	FTK・レグ レーシング ガ レージ	12	24' 33.604	38.626	105.141	1' 32.703 10
12	34		磐上 隼斗	KK-S	アルビ ビ ョント KKSGIAED	12	24' 33.615	38.637	105.141	1' 32.414 9
13	79	G	2 安藤 弘人	RD10V	ZAPSPEED10VED	12	24' 42.550	47.572	104.507	1' 33.067 11
						----- 以上完走 -----				
	0	G	夕田 大助	KK-S II	LAPS・レグ レーシング	0		12Laps		

参加台数：14台 出走台数：14台 完走台数：13台

Fastest Lap: 8 岡本 大地 1' 28.456 10/12 145.964km/h

SC導入 15:58:47 ~ 16:11:41 (1周~4周)

※No. 7の車両は、2022SUGOインターナショナルレーシング コース4輪一般競技規則 第4章第24条3.2(トラックリミット違反)により、決勝結果に対して10秒加算のペナルティが課された。(裁定時刻 16:22)

2022 SUGO Champion Cup Race Series Rd.1

2022 JMRC TOHOKU RACE SERIES Rd.2

2022 JAF SUGO CIRCUIT TRIAL CHAMPIONSHIP Rd.1

2022.4.16-17 SUGO INTERNATIONAL RACINGCOURSE



主催：株式会社菅生／菅生スパークラブ

協賛：住友ゴム工業 株式会社

2022 SUGOチャンピオンカップ レースシリーズ Rd. 1 JAFもてぎ・菅生スパー-FJ選手権 第3戦 公式予選正式結果表

START : 9:00:00

FINISH : 9:15:00

2022.04.17		SUGO INTERNATIONAL RACING COURSE (3.5865km)				天候：晴れ	コース状況：ドライ		発表	
Pos	No.	Class	Driver	Type	Team	BestTime	Ave. Km/h	Laps	Behind	
1	7		渡会 太一	KK-S II	SIGMA FTK レウ RG	1'27.986 R	146.744	8/9		
2	8		岡本 大地	KK-S II	FTKレウ レーシング ガ レージ	1'28.166	146.444	7/9	0.180	
3	13		田上 蒼竜	RD10V	Asカンパ ニー ZAP ED	1'29.000	145.072	8/9	1.014	
4	81		内田 涼風	KK-S II	群馬トヨベ ットRiNoA ED	1'29.184	144.773	7/9	1.198	
5	26		村田 悠磨	RD10V	ZAP SPEED 10VED	1'29.188	144.766	8/9	1.202	
6	36		池内 比悠	RD10V	7ルビ LINKLINEGIAED	1'29.837	143.720	5/9	1.851	
7	37		大川 烈弥	RD10V	7ルビ 10Vタ イルGIAED	1'30.023	143.423	4/9	2.037	
8	97		池田 拓馬	RD10V	テイクファースト&AMEROID	1'30.189	143.159	7/9	2.203	
9	55		板倉 慎哉	KK-S II	AMORE TOKYO	1'30.409	142.811	6/8	2.423	
10	0	G	1 夕田 大助	KK-S II	LAPS・レウ レーシング	1'30.507	142.656	9/9	2.521	
11	34		磐上 隼斗	KK-S	7ルビ ビヨント KKSGIAED	1'31.057	141.795	8/9	3.071	
12	9	G	2 上吹越 哲也	KK-S II	FTK・レウ レーシング ガ レージ	1'31.156	141.641	8/9	3.170	
13	15		齊藤 慈岳	KK-S II	FERWILDLIFEKKS II	1'31.537	141.051	8/9	3.551	

----- 以上予選通過 -----

参加台数：13台 出走台数：13台

Rマークの車両は、コースロードを更新しました。従来のコースロードは1'28.101

予選通過基準タイム (130%)1'54.899

No.13の車両の走路外走行をした周回のタイムは採用されない。

2022 SUGOチャンピオンカップ レースシリーズ Rd. 1 JAFもてぎ・菅生スパー-FJ選手権 第3戦 決勝正式結果表

START : 13:03:01

FINISH : 13:20:53

2022.04.17		SUGO INTERNATIONAL RACING COURSE (3.5865km)				天候：晴れ	コース状況：ドライ		発表	
Pos	No.	Class	Driver	Type	Team	Laps	Time	Delay	Ave.km/h	Fastest Lap
1	8		岡本 大地	KK-S II	FTKレウ レーシング ガ レージ	12	17'52.576		144.453	1'28.626 5
2	7		渡会 太一	KK-S II	SIGMA FTK レウ RG	12	17'59.306	6.730	143.552	1'28.575 11
3	81		内田 涼風	KK-S II	群馬トヨベ ットRiNoA ED	12	18'06.850	14.274	142.556	1'29.530 7
4 ※	13		田上 蒼竜	RD10V	Asカンパ ニー ZAP ED	12	18'13.383	20.807	141.704	1'28.989 8
						(18'03.383+10秒)				
5	36		池内 比悠	RD10V	7ルビ LINKLINEGIAED	12	18'15.559	22.983	141.423	1'30.075 7
6	26		村田 悠磨	RD10V	ZAP SPEED 10VED	12	18'15.983	23.407	141.368	1'29.895 7
7	55		板倉 慎哉	KK-S II	AMORE TOKYO	12	18'18.220	25.644	141.080	1'29.844 9
8	97		池田 拓馬	RD10V	テイクファースト&AMEROID	12	18'20.449	27.873	140.794	1'30.607 8
9	37		大川 烈弥	RD10V	7ルビ 10Vタ イルGIAED	12	18'21.800	29.224	140.622	1'30.327 6
10	0	G	1 夕田 大助	KK-S II	LAPS・レウ レーシング	12	18'25.532	32.956	140.147	1'30.932 4
11	9	G	2 上吹越 哲也	KK-S II	FTK・レウ レーシング ガ レージ	12	18'30.481	37.905	139.522	1'30.890 6
12	15		齊藤 慈岳	KK-S II	FERWILDLIFEKKS II	12	18'32.813	40.237	139.230	1'31.126 6
13	34		磐上 隼斗	KK-S	7ルビ ビヨント KKSGIAED	12	18'35.278	42.702	138.922	1'31.546 7

----- 以上完走 -----

参加台数：13台 出走台数：13台 完走台数：13台

Fastest Lap : 7 渡会 太一 1'28.575 11/12 145.768km/h

No.13の車両に対し、黒白旗を提示した。(提示時刻 13:09)

※No.13の車両は、2022SUGOインターナショナルレーシングコース輪一般競技規則 第4章第24条3.2) (トラックリミット違反)により、決勝結果に対して10秒加算のペナルティが課された。(裁定時刻 13:15)

